



山梨大学大学院総合研究部（工学域）

地域防災・マネジメント研究センター

Disaster and Environmentally Sustainable administration REsearch center, University of Yamanashi

プレス発表資料

2020年7月1日

国立大学法人 山梨大学

令和2年度事業計画：

フェーズフリーな富士山情報共有のあり方に関する検討

【事業の概要】

2014年御嶽山噴火以降、登山者の安全確保は重要な課題となっている。本事業では、日常時における火山監視や登山者の安全対策に貢献し、噴火等の災害対応にも活用できるフェーズフリーな富士山情報共有について、あるべき姿を提案することを目的とする。今年度は、関係するステークホルダーへのニーズ調査を実施し、フェーズフリーな情報共有の要件をまとめる。

- (1) ステークホルダーへのニーズ調査
- (2) フェーズフリーな情報共有の要件

【役割分担】

- (1) 富士山科学研究所：全体総括、ステークホルダーへのニーズ調査
- (2) 山梨県防災局、山梨県県土整備部：現場ニーズ
- (3) 山梨大学：フェーズフリーな情報共有の要件

フェーズフリーとは、日常時と非常時の2つの時間のフェーズをフリーにする新しい防災に関わる考え方です。災害時のための特別な備えをするのではなく、普段利用している商品・サービス・インフラが、非常時にも機能するようにデザインされているため、災害時にも効果が発揮されます。「備えない防災」として様々なセクターで注目されています。

山梨県社会資本整備重点計画（第四次）（2020年3月）の中に、「「日常」と「非常時」を区別せず、いずれの場面でも利用できるフェーズフリーな社会を構築していくことが求められています。」の文言が盛り込まれています。